

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 1階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25-1		
自己評価作成日	令和元年6月21日	評価結果市町村受理日	令和元年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jiyosyoCd=2296900075-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前には散歩・畑の様子観察(水やり)に始まり、お日様の恵みをしっかりと浴びて一日がスタート。外の空気に触れること・身体をしっかりと動かすことを生活の中心としています。年間を通して四季折々の花木観賞(梅・桜・つじ・バラ・紫陽花・秋には紅葉)へ出掛けて四季を感じ、敷地内の畑では、じゃがいも・夏野菜(トマト・きゅうり・ピーマン・なす・オクラ・ゴーヤ・南瓜)・海老芋・さつまいもを育て、自分達で収穫した新鮮野菜を「今日は何にしよう…明日はこうしよう…」楽しく美味しく頂いております。また恒例行事となる年二回実施する地域交流会(夏は流しそめん・天ぷら、秋は焼き芋・芋煮会)も、ご家族様や地域住民様のご理解とご協力を得て、皆が

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎週水曜日を「事故検討会」と定め、看護師も加わってヒヤリハットの協議を重ね、時間帯や月間での変化を把握することで事故減少につなげています。また「本日の勤務者」や「その日の担当」、「利用者個々の今月の予定」が一目で判るよう掲示されていたり、各種ファイルはラベルに基づき整然と並び、事業所として年々足固めが進んでいることが十二分に視えます。焼き芋会では地域住民が焼くための機械を寄贈くださり、地域交流会には準備段階から地域や家族が参加して、流しソーメンの竹は公民館事業でも使い回された後、竹細工やバチヘトリユースされるとのエピソードからも爽りの多い日々が続いていることが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を玄関や2Fエレベーターホール、スタッフ室内に掲示して、理念の実現に向けて努力している。	重要事項説明書には目的と方針を記載し、理念の掲示もあります。方針、理念をベースに施設目標、年間目標、月間目標を全員参加(アンケート)で作成し、ブレインストーミング法なども用いて現状把握や振り返りをおこなっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人合同開催による夏祭りや地域の秋祭りへの参加。年に二回地域交流会の開催。防災訓練時には地域の避難場所として、施設の屋上を利用している。	玄関先のベンチは地域住民が制作くださったもので、正月には門松も届きます。他にも畑や行事に地域住民の支援があり、また事業所の地域交流会には準備から参加してもらっていて地域と一体となったイベントとして昇華しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への参加を通して事業所の特徴を知っていただく。運営推進会議にて日頃の活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の生活の様子や活動状況を報告している。参加者からのご意見を参考にし、今後のサービス向上につなげている。	毎回テーマを用意して臨む運営推進会議には試食タイムがある日もあって、予定の1時間を超過してしまう程盛況です。「お知らせは流すよ」「手伝うよ」と声が上がリ、日増しに「チームつどい」として形づくられています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初めに入居状況の報告をしている。市職員への相談や助言・指導を受けて対応をしている。	運営推進会議では市役所職員からも外出先などへの助言や提案があがり、また来月には地域包括支援センター主催のケアメン講座に管理者が協力することになっており、行政とは良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はせず職員で協力して見守り対応している。法人内の勉強会に参加して理解を深めている。委員会を設置し運営推進会議での報告・検討をしている。	法令に従い「身体拘束適正化検討委員会」の開催を重ね、法人内では「身体拘束廃止」「倫理・法令遵守・権利擁護」といったテーマで研修会が定期実施され、さらに委員2名を「身体拘束廃止フォーラム」に出席させていて、総じて丁寧に取り組んでいることが書面からも確認できます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会に参加参加して、理解と防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会に参加し理解を深めている。現在、成年後見制度を利用されている方もあり、保佐人と連絡をとり合って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書を交付し、説明。同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置し、窓口を明確にしている。	面会では担当職員不在時でも必要なことが家族に届くようにルール化され、「つどいだより(行事と運営推進会議の報告)」と「今月の1枚(生活の様子)」を交互に発行して家族に情報を届けており、年2回の地域交流会も盛況です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度時間を要して、様々な内容の会議を行っている。年一回の職員面談を実施している。	リーダー会議や任意で集まるユニット会議の他に13時半から14時には小会議が毎日おこなわれ、事務所のカレンダーには各職員がその場で話し合いたい内容を記入する仕組みもあり、自主性や積極性が養われるとともに、情報共有を確かなものとしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて働きやすい環境づくりに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて定期的に確認、指導している。同法人内の勉強会に参加を促し、認知症介護実践者研修等外部研修への参加も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会議や地域ケア会議への参加。情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居できるように、場合によっては複数回の面談機会を設けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談受けることを説明し、可能な限り時間外での対応・訪問も受けられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、併設施設の医師や看護師・OT・栄養士等と連携し、その方に合ったサービス提供が出来るように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念のもと、個人を尊重し支え合いを大切にした生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人とゆったり過ごせる配慮をしている。個人アルバムを作成しご家族様に報告している。また、施設のお便りにて活動報告、日々の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容室など)や友人との交流が継続できる支援を心掛けている。	晩酌や美容院、友人とのつきあいも継続できています。その時季ごとのものを大切にしている、おはぎやおせち料理を利用者と一緒につったり、また夫婦で入所している利用者は昨年、孫の結婚式に揃って出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況確認をしたり、入院先への訪問をしている。年二回開催する地域交流会の案内をお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の様子を照らし合わせて、言葉にならない思いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。	主にセンター方式とひもときシートで意向把握をおこなっています。他にも外出や行事での写真は個々にアルバムに収めていて、会話が途切れたときの話材となったり、面会の家族と本人が語り合うツールとして活用されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式、ひもときシートの活用でアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当職員もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を発表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。	サービス担当者会議は家族の面会に合わせています。2表のサービス内容には簡潔な文言が並んでいて、具体的です。今後は「個別性も打ち出したい」としてケアマネジメント実務の研修会にも申し込み済みで、本件の向上に意欲が伝わります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルに沿って個別記録を記入。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課チェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・地域包括・市役所・自治会等意見交換をしている。ボランティア団体による行事の計画。地域住民へ参加の呼びかけをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。	健康で医者通いがなかった人もいますが泌尿器などは以前の医院を継続してもらい、また通院介助は家族が無理であれば事業所で支援していて、年々頻度は増える傾向にあります。精神科については母体病院からの往診があり、全ての記録は「療養記録」に残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週2日程度訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間体制で連携出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族と情報を集約し、担当医師や看護師と相談。今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応指針を家族に説明し同意を得ている。また緊急搬送時の	「看取りはおこなわない」として「重度化した場合の対応に係る指針」を示して、契約時に家族とは合意形成できています。磐田病院仕様の書式を補完するためにも事業所独自で「救急搬送時の情報提供書」を備え、家族とも年に1度意向に変化がないか確認をおこなっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようにスタッフ室内に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも、津波に備えて、階段を使用して入居者を二階へ誘導する訓練を全職員が参加できるようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上に上がり活用している。	地域づくり協議会が防災マニュアルを作成し直す折に地域の避難場所として当事業所を指定してから、年1回40人余の住民が集まる日があります。その日に合せて事業所も訓練を実施、「職員だけの避難は無理」と自らの目で判ったという人は協力を申し出てくださいしています。	全職員が体験できるように工夫くださっていますので、次の段階として職員に自己評価(何がどの程度把握できているか)する機会があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。	「～さん」づけの呼称、居室の入退室ノックやタオルでの羞恥心配慮などは当たり前のこととして、例えばリビングで大勢集まってしまうと利用者が他者批判することもあり、状況設定もリスク管理と心得て環境づくりにも気遣っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、できる限り意に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けている。趣味・嗜好活動の提供は、同法人内の施設職員とも連携して、個人の希望に沿った支援ができるように検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて美容室への付き添いや施設では定期的に理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、ご家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を掲示し、嗜好に合わせて個別の対応もしている。食事の支度・片付け等は出来る範囲で職員と一緒に。月二回の料理人訪問によるセレクトメニューも充実している。	週1度プロの調理師が訪れて6、7品目の多彩な惣菜が仕出し弁当風に仕立てられた食事を堪能できる日があります。普段でも職員の手作り調理が提供され、ご飯だけ残ってしまった人にはふりかけを、またご飯やお茶のおかわりを気配りして、利用者もそれに甘える様子でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士から助言を頂いたり食材は栄養バランスの整った宅配業者を利用。自施設の畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェックや個別の補食も管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導・助言を受け、口腔内の確認・口腔ケアの実施をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。	平均年齢85歳の状態で、4割弱の利用者が布パンツを維持できていて、ここ1年の間にも「落ちた」ということはありません。立位が保てない、身体を支えられない、気分のムラがあるなどの症状をもつ3名については2人介助を以て「トイレで」が叶っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩・体操にて身体を動かしている。毎晩ヨーグルトの提供にて便秘予防に努めている。個別に合った下剤調整・メンタ湿布の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や予定・気分に合わせて、柔軟な対応をしている。	各自シャンプーやボディーソープを別棚に備え、脱衣所とともに浴室はスッキリと清潔です。冬至の時は1週間ほどの期間を定めて全ての利用者が一番風呂の順番が廻ってくるよう配慮し、果物の柚子か柚子風の浴剤のどちらかを選択できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後と休憩時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡を取り、医師の指示にて内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事の支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の要望に応じて対応をしている。買い物や地域行事への参加ができるように努力している。	外気浴が毎日あり、足腰の状態によって散歩頻度は其々です。梅、桜つつじ、紫陽花、薔薇と季節を追いかけ、近隣のショッピングセンターやチェーンレストランのほか、地域の交流センターの食事処は定石として繰り返し訪れています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理をしている。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやりとりも個別に対応する。年賀状は入居者全員が家族や友人等に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのお花や入居者が手入れしている盆栽を置いている。ソファの設置にて心地よく過ごしている。	花好きな職員の手による季節の花が咲き誇り、また2階の踊り場にある雑誌コーナーには活字好きの利用者たちが通っていて、「もっと種類が欲しい」といった要望に応じています。玄関先には幾つものベンチが並び、過ごしやすいうちの心配りが至る場面に満ちています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。同テーブルの仲間との談笑、協力して過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた物や馴染みの物、嗜好品を増やし自分らしい部屋・環境作りに努めている。	遠方在住の家族もいて、ゆっくり休みたいのか各居室には大きめのソファが見られます。規定の1.5倍の広さとあって、筆筒やチェストを持ち込んでもゆったりとしていて、何気なく置いた帽子に「外出好き」が覗えたり、吊るされたコートにお洒落心が偲べれます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで歩行器や車椅子は自由に移動ができる。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 2階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25-1		
自己評価作成日	令和元年6月21日	評価結果市町村受理日	令和元年8月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.nhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&jiyosyoCd=2296900075-008PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和元年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前には散歩・畑の様子観察(水やり)に始まり、お日様の恵みをしっかりと浴びて一日がスタート。外の空気に触れること・身体をしっかりと動かすことを生活の中心としています。年間を通して四季折々の花木観賞(梅・桜・つじ・バラ・紫陽花・秋には紅葉)へ出掛けて四季を感じ、敷地内の畑では、じゃがいも・夏野菜(トマト・きゅうり・ピーマン・なす・オクラ・ゴーヤ・南瓜)・海老芋・さつまいもを育て、自分達で収穫した新鮮野菜を「今日は何にしよう…明日はこうしよう…」楽しく美味しく頂いております。また恒例行事となる年二回実施する地域交流会(夏は流しそめん・天ぷら、秋は焼き芋・芋煮会)も、ご家族様や地域住民様のご理解とご協力を得て、皆が

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎週水曜日を「事故検討会」と定め、看護師も加わってヒヤリハットの協議を重ね、時間帯や月間での変化を把握することで事故減少につなげています。また「本日の勤務者」や「その日の担当」、「利用者個々の今月の予定」が一目で判るよう掲示されていたり、各種ファイルはラベルに基づき整然と並び、事業所として年々足固めが進んでいることが十二分に視えます。焼き芋会では地域住民が焼くための機械を寄贈くださり、地域交流会には準備段階から地域や家族が参加して、流しソーメンの竹は公民館事業でも使い回された後、竹細工やバチヘトリユースされるとのエピソードからも爽りの多い日々が続いていることが伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を玄関や2Fエレベーターホール、スタッフ室内に掲示して、理念の実現に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	法人合同開催による夏祭りや地域の秋祭りへの参加。年に二回地域交流会の開催。防災訓練時には地域の避難場所として、施設の屋上を利用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議への参加を通して事業所の特徴を知っていただく。運営推進会議にて日頃の活動報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では日々の生活の様子や活動状況を報告している。参加者からのご意見を参考にし、今後のサービス向上につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月初めに入居状況の報告をしている。市職員への相談や助言・指導を受けて対応をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はせず職員で協力して見守り対応している。法人内の勉強会に参加して理解を深めている。委員会を設置し運営推進会議での報告・検討をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会に参加参加して、理解と防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会に参加し理解を深めている。現在、成年後見制度を利用されている方もあり、保佐人と連絡をとり合って支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書を交付し、説明。同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・意見箱を設置し、窓口を明確にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度時間を要して、様々な内容の会議を行っている。年一回の職員面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて働きやすい環境づくりに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストにて定期的に確認、指導している。同法人内の勉強会に参加を促し、認知症介護実践者研修等外部研修への参加も進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会議や地域ケア会議への参加。情報交換している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入居できるように、場合によっては複数回の面談機会を設けて対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談受けることを説明し、可能な限り時間外での対応・訪問も受けられるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、併設施設の医師や看護師・OT・栄養士等と連携し、その方に合ったサービス提供が出来るように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本理念のもと、個人を尊重し支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は本人とゆったり過ごせる配慮をしている。個人アルバムを作成しご家族様に報告している。また、施設のお便りにて活動報告、日々の様子を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容室など)や友人との交流が継続できる支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況確認をしたり、入院先への訪問をしている。年二回開催する地域交流会の案内をお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の様子を照らし合わせて、言葉にならない想いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式、ひもときシートの活用でアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当職員もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を発表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルに沿って個別記録を記入。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課チェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・地域包括・市役所・自治会等意見交換をしている。ボランティア団体による行事の計画。地域住民へ参加の呼びかけをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週2日程度訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間体制で連携出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族と情報を集約し、担当医師や看護師と相談。今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応指針を家族に説明し同意を得ている。また緊急搬送時の		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようにスタッフ室内に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも、津波に備えて、階段を使用して入居者を二階へ誘導する訓練を全職員が参加できるようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上に上がり活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、できる限り意に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けている。趣味・嗜好活動の提供は、同法人内の施設職員とも連携して、個人の希望に沿った支援ができるように検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて美容室への付き添いや施設では定期的に理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、ご家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を掲示し、嗜好に合わせて個別の対応もしている。食事の支度・片付け等は出来る範囲で職員と一緒に。月二回の料理人訪問によるセレクトメニューも充実している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士から助言を頂いたり食材は栄養バランスの整った宅配業者を利用。自施設の畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェックや個別の補食も管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	併設施設の歯科衛生士の指導・助言を受け、口腔内の確認・口腔ケアの実施をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩・体操にて身体を動かしている。毎晩ヨーグルトの提供にて便秘予防に努めている。個別に合った下剤調整・メンタ湿布の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や予定・気分に合わせて、柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後と休息時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡を取り、医師の指示にて内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事の支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の要望に応じて対応をしている。買い物や地域行事への参加ができるように努力している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理をしている。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやりとりも個別に対応する。年賀状は入居者全員が家族や友人等に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのお花や入居者が手入れしている盆栽を置いている。ソファの設置にて心地よく過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。同テーブルの仲間との談笑、協力して過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた物や馴染みの物、嗜好品を増やし自分らしい部屋・環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで歩行器や車椅子は自由に移動ができる。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。		